

利尻島のヒラタムシ上科目録 その1 ヒゲボソケシキスイ科, ケシキスイ科 (コウチュウ目)

久松定智¹⁾・柏崎 昭²⁾

¹⁾ 〒 444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2 人間環境大学環境科学科

²⁾ 〒 001-0000 北海道札幌市北区

Records of Cucujoid Beetles from Rishiri Island, Hokkaido. Part I. Family Kateretidae Erichson and Nitidulidae Latreille (Coleoptera)

Sadatomo HISAMATSU¹⁾ and Akira KASHIZAKI²⁾

¹⁾Department of Environmental Science, University of Human Environments,
Kamisanbonmatsu 6-2, Motojyuku-cho, Okazaki, Aichi, 444-3505 Japan

²⁾Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 001-0000 Japan

Abstract. Rishiri Island is located off the northwest coast of Hokkaido, Japan. Faunistic research of the island is important to clearly elucidate the faunal composition of the Palearctic Far East. Numerous faunistic studies on beetles, such as Carabidae, have been conducted for this island, however, there are few records for cucujoid beetles. As a result of the research herein, including field, museum specimen, and literature research, conducted by the authors in 2019, four kateretid beetle species and 38 nitidulid beetle species have been recorded from the island. Among these beetles, *Eपुरaea silacea* is a first report from Japan. Additionally, two kateretid and 23 nitidulid beetle species are newly recorded from Rishiri Island.

はじめに

利尻島のコウチュウ相については、リシリノマックレイセアカオサムシをはじめとするオサムシ科の報告が多く(保田ほか, 1991; 森田, 1995, 2004, 2015; 堀, 1999; Imura, 2004, ほか), その他, マグソコガネ類(石田, 1976), ハムシ科(今坂, 1978), カミキリムシ科(佐藤・楠井, 1984), シデムシ科(石田, 1985), 水生昆虫類(松井, 1994)などの記録がある。しかしながら, コウチュウ目の中でも, ヒラタムシ上科に含まれるグループについては, 研究者が少ないこと, 体長が小さく同定が難しいこと等の理由から, 記録が多くない。

利尻島からヒラタムシ上科は, 現在までわずか3科の記録しかなく, ヒゲボソケシキスイ科(久松定

成, 1985), ケシキスイ科(久松定成, 1985; 保田ほか, 1991), およびオオキノコムシ科(保田ほか, 1991; 乙部, 1993)が知られるのみであり, 調査の余地が多分に残されている。上述のケシキスイ科については, 著者らにより北海道から多数の未記載種・日本未記録種が報告されており(柏崎, 2015; Hisamatsu, 2016, ほか), 北海道のほぼ北端に位置する利尻島からも, 日本未記録や未記載種が発見されることが期待される。

本研究では, 利尻島のヒラタムシ上科のうち, ヒゲボソケシキスイ科ならびにケシキスイ科の2科について, 第1報として報告する。

なお, 本研究は, 2019年度利尻島調査研究事業の助成を受け, 実施された。また, 調査に先立ち,



図1. 利尻島における主な調査地点及び調査コース (出典 国土地理院 一部改変).

国有林内への入林許可申請，ならびに利尻山特別保護地区内動物の捕獲許可（環北稚自許第 1905091 号）と特別地区内工作物の新築許可（環北稚自許第 1905092 号）を得た上で実施した。

材料および方法

2019 年に著者らが行った現地調査のほか，文献調査，並びに利尻町立博物館における所蔵標本調査により，利尻島におけるヒゲボソケシキスイ科及びケシキスイ科の記録をまとめた。現地調査は，主に杵形及び鷺泊登山コース沿いに下記トラップを設置したほか，ビーティング法，スィーピング法等を用いた採集も行った。利尻山以外でも，オタドマリ沼や姫沼，その他海岸沿いなど平地の環境でも調査を実施した（図 1）。標本調査も含め，現地での調査は，2019 年 6 月 30～7 月 4 日，及び同年 8 月 27～9 月 1 日に実施した。

リスト中における採集方法の略記は以下の通りとする。[BT]= バナナを用いたベイトトラップ（図 2），[FIT]= 衝突板トラップ（図 3），[LT]= ライトトラップ，[TT]= 戸田式トラップ（発酵したバナナによる誘引法）。同様に，採集者及び保管者は以下の通り略記する。SH= 久松定智，AK= 柏崎昭，MS= 佐藤雅彦，(RTM)= 利尻町立博物館。なおリスト中，利尻島初記録種については，学名の後に * と表記した。

結果

I. ヒゲボソケシキスイ科

Kateretidae Erichson, 1846

1. ウンランチビハナケシキスイ

Brachypterolus pulicarius (Linnaeus, 1758)* (図 13)

[調査標本] 4exs., 大磯，鷺泊，ウンランの花より，5. VII. 2019, SH.

利尻島初記録。本種はウンラン *Linaria japonica* (ゴマノハグサ科)の花(図 4)に集まる(Hisamatsu, 2011)。

2. コクロチビハナケシキスイ

Brachypterus urticae (Fabricius, 1792) (図 14)

[調査標本] 1ex., 朝日川，鬼脇，19. VIII. 1990, MS (RTM); 1ex., 大ボン山，鷺泊，1. VII. 2019, AK; 1ex., オタドマリ沼，鬼脇，3. VII. 2019, AK; 7exs., 姫沼，鷺泊，27. VIII. 2019, AK.

本種は，久松定成（1985）により利尻島から記録されている。本種はイラクサ類 *Urtica* spp. (イラクサ科)の花に集まる(Hisamatsu, 2011)。

3. キイロチビハナケシキスイ

Heterhelus scutellaris (Heer, 1841)* (図 15)

[調査標本] 1ex., 杵形見返台～利尻山六合目，

4. VII. 2019, AK; 1ex., オチウシナイ沢, 雄忠志内, 鴛泊, 30. VI. 2019, AK; 8exs., 見返台～利尻山八・五合目, 杓形, エゾニワトコの花より, 30. VI. 2019, SH; 2exs., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 1ex., キャンプ場～利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH.

利尻島初記録. 本種は, ニワトコ *Sambucus racemosa* (レンプクソウ科) の花に集まることが知られている (Hisamatsu, 2011). 現地調査では,

エゾニワトコ *S. racemosa* L. subsp. *kamtschatica* (E.L.Wolf) Hultén の花 (図5) より得られた.

4. ズグロチビハナケシキスイ

Heterhelus solani (Heer, 1841) (図16)

[調査標本] 4exs., 利尻山 (100m), 12. VII. 1991, MS (RTM); 2exs., 利尻山, 17. VII. 1991, MS (RTM).

本種は, 久松定成 (1985) により利尻島から記

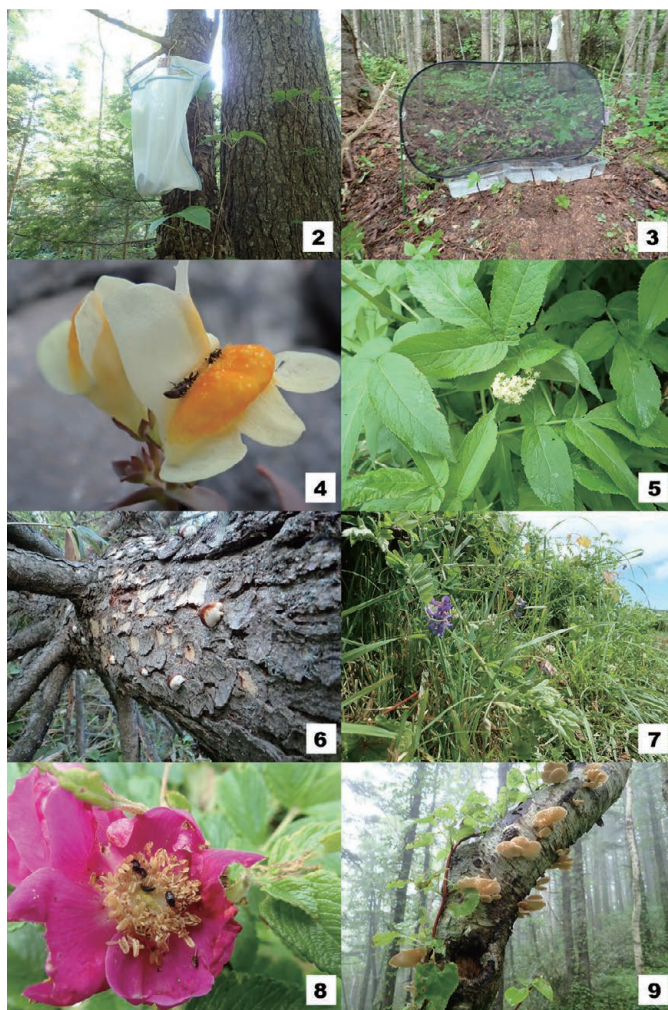


図2-9. 2. 洗濯用ネットを用いたバナナトラップ(杓形, 2019年7月4日, 久松定智撮影); 3. 衝突版トラップ(杓形, 2019年6月29日, 久松定智撮影); 4. ウンランの花に群がるウンランチビハナケシキスイ (鴛泊, 2019年7月5日, 久松定智撮影); 5. キイロチビハナケシキスイが得られたエゾニワトコの花 (杓形, 2019年6月30日, 久松定智撮影); 6. オオヒラタケシキスイが得られたヒトクチタケ (姫沼, 2019年7月5日, 久松定智撮影); 7. クサフジチビケシキスイが得られたヒロハクサフジの花 (鬼脇, 2019年7月3日, 久松定智撮影); 8. ハマナスの花に群がるケベリチビケシキスイ (鬼脇, 2019年7月3日, 久松定智撮影); 9. ニセクロマルケシキスイが得られた菌類の子実体 (鴛泊, 2019年7月1日, 久松定智撮影) .

録されている。体のサイズや赤褐色の体色は前種に似るが、本種は前胸背板がより隆起すること、触角球桿部が明瞭に3節であること等から区別できる (Hisamatsu, 2011)。

II. ケシキスイ科

Nitidulidae Latreille, 1802

ヒラタケシキスイ亜科

Epurinae Kirejtshuk, 1986

1. オオヒラタケシキスイ

Epuraea (Aphenolia) pseudosoronia (Reitter, 1884)* (図 17)

[調査標本] 2exs., 姫沼, 5. VII. 2019, SH; 3exs., 同場所, 29. VIII. 2019, AK; 1ex., 同場所, 30. VIII. 2019, AK. ※上記すべての個体はヒトクチャタケ *Cryptoporus volvatus* より採集。

利尻島初記録。本種は、ヒトクチャタケ (図 6) に特異的に集まることが知られている (久松定成, 1985)。北海道から本種の記録は、上記図鑑のみである。

2. カノコヒラタケシキスイ

E. (Dadopora) vicaria Kirejtshuk et Kvamme, 2001* (図 18)

[調査標本] 14exs., 見返台, 杓形, 15. VI. 1994, 渡部ほか (RTM); 1ex., 同場所, 29. VI - 4. VII. 2019, [BT], AK; 2exs., 同場所, 4. VII. 2019, [BT], SH; 3exs., 森林公園～見返台, 杓形, 4. VII. 2019, [BT], SH.

利尻島初記録。現地調査では、中標高地から、バナナトラップで採集された。本亜属の種は、バナナの樹液で幼虫が生育し、成虫は各種の花や発酵した果物に集まることが知られている (Hisamatsu, 2016)。

3. ヒゲブトヒラタケシキスイ

E. (Epuraea) aestiva (Linnaeus, 1758)* (図 19)

[調査標本] 1ex., キャンプ場～利尻山五合目,

鴛泊, 2. VII. 2019, AK; 1ex., 森林公園, 杓形, 4. VII. 2019, AK; 1ex., 見返台～利尻山八・五合目, 30. VI. 2019, SH; 3exs., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 1ex., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 1ex., 森林公園～見返台, 4. VII. 2019, [BT], SH.

利尻島初記録。本種は、♀触角先端節が強く拡大することから、他種と容易に区別できる。成虫は各種の花に集まるが、幼虫はマルハナバチ類 *Bombus* spp. の巣から得られることが知られている (Hisamatsu, 2016)。

4. ツマジロヒラタケシキスイ

E. (E.) apiciclara S.-T. Hisamatsu, 2016* (図 20)

[調査標本] 2exs., 見返台, 24. V. 1994, 渡部ほか (RTM); 1ex., 同場所, 15. VI. 1994, 渡部ほか (RTM).

利尻島初記録。本種は、上翅先端が通常淡色になること、触角溝が深く、基部に向けて急激に狭まること等の特徴をもつ (Hisamatsu, 2016)。

5. クロテンヒラタケシキスイ

E. (E.) argus Reitter, 1894* (図 21)

[調査標本] 1ex., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 2exs., 見返台～利尻山六合目, 4. VII. 2019, AK; 2exs., 見返台, 29-31. VIII. 2019, AK; 3exs., 姫沼, 30. VIII. 2019, AK.

利尻島初記録。本種は、♀の腹部背板第7節の前縁が尖ることが特徴の一つである。

6. ナミヒラタケシキスイ

E. (E.) biguttata (Thunberg, 1784)* (図 22)

[調査標本] 24exs., 見返台, 24. V. 1994, [TT], 渡部ほか (RTM); 51exs., 同場所, 15. VI. 1994, [TT], 渡部ほか (RTM); 6exs., 同場所, [BT], 29. VI - 4. VII. 2019, AK; 1ex., 利尻町立博物館周辺, 仙法志, 24. V. 1994, [TT], 渡部ほか (RTM); 1ex., オチウシナイ沢, 30. VI. 2019, AK; 13exs., 森林公園～見返台, 4. VII. 2019, [BT], SH; 23exs., 見返台～利尻山八・五合目, 4.

VII. 2019, [BT], SH; 1ex., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, SH; 1ex., キャンプ場〜利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH.

利尻島初記録. 島内では, 平地から高標高地まで見られる. 2019年の現地調査では, バナナトラップにより採集された.

7. ナミムネヒラタケシキスイ

E. (E.) distincta (Grimmer, 1841)* (図 23)

[調査標本] 1ex., 見返台, 24. V. 1994, [TT], 渡部ほか. (RTM)

利尻島初記録. 本種は, 前胸背板基部が後角直前で急激に狭まることの特徴の一つである. チャミダレアミタケ属 *Daedaleopsis* spp. の子実体で幼虫が生育することが知られている (Hisamatsu, 2016).

8. ホソキヒラタケシキスイ

E. (E.) oblonga Herbst, 1793* (図 24)

[調査標本] 1ex., 見返台, 24. V. 1994, [TT], 渡部ほか (RTM)

利尻島初記録. 利尻島の現地調査においては, 近似種のニセホソキヒラタと比較して個体数が少ない傾向があった.

9. ウスモンアカヒラタケシキスイ

E. (E.) pallescens (Stephens, 1835)* (図 25)

[調査標本] 1ex., キャンプ場〜利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 1ex., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK.

利尻島初記録. 本種は, 頬部に深い窪みがあることが特徴の一つである (Hisamatsu, 2016).

10. ハネナガヒラタケシキスイ

E. (E.) pseudorapax Kirejtshuk, 1995

[調査標本] 3exs., 大ボン山, 29. VIII. 2019, AK; 1ex., 森林公園〜見返台, [BT], 29-31. VIII. 2019, AK.

本種は久松定成 (1985) により, 利尻島から記録されている.

11. ニセホソキヒラタケシキスイ

E. (E.) rubronotata Reitter, 1873* (図 26)

[調査標本] 28exs., 見返台, 24. V. 1994, [TT], 渡部ほか (RTM); 1ex., 森林公園〜見返台, 4. VII. 2019, [FIT], SH; 3exs., 見返台〜利尻山八・五合目, 4. VII. 2019, [BT], SH.

利尻島初記録. 本種はニセホソキヒラタケシキスイに似るが, 前胸背板や上翅は, より左右並行であること等から区別される.

12. ヘリアカヒラタケシキスイ

E. (E.) rufomarginata (Stephan, 1830)*

[調査標本] 1ex., 29. VI. 2019, 杏形〜見返台, AK.

利尻島初記録. 本種は, 前胸背板側縁が波打つこと等の特徴をもつ.

13. セコブヒラタケシキスイ

E. (E.) terminalis Mannerheim, 1843 (図 27-28)

[調査標本] 3exs., 杏形〜見返台, 29. VI. 2019, AK; 2exs., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 13exs., キャンプ場〜利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 1ex., キャンプ場〜利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH; 1ex., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, SH; 1ex., 同場所, 3. VII. 2019, AK; 1ex., 見返台〜利尻岳六合目, 4. VII. 2019, AK; 5exs., 森林公園, 4. VII. 2019, AK; 2exs., 同場所, 29. VIII. 2019, AK; 10exs., 森林公園〜見返台, 4. VII. 2019, [BT], SH; 35exs., 同場所, 29-31. VIII. 2019, [BT], AK.

本種は柏崎 (2015) により, 北海道から初めて記録された. 利尻島からは, Hisamatsu (2016) の記録がある. 利尻島では多産し, 今回の調査でも各種の花より採集されたが, 北海道本土においては稀な種である. 体色には変異があり, 表面全体が一様に黄褐色の個体 (図 27) から, 前胸背板の中央と上翅側縁〜先端が黒化する個体 (図 28) も見られる.

14. スベハダヒラタケシキスイ (新称)

E. (E.) silacea (Herbst, 1783)* (図 10-12)

〔調査標本〕 1ex., 姫沼, 30. VIII. 2019, AK.

本稿で、日本から初めて記録される。本種はヨーロッパ全域、イラン、モンゴル、西シベリアから知られている。旧北区極東地域に分布し、日本では北海道、東北地方からも記録のあるモモトゲヒラタケシキスイ *E. reichardti* Sjöberg, 1939 に非常に近縁だが、本種は前腿節の内縁中央が突出しないこと、median lobe 先端が尖ること等からモモトゲヒラタケシキスイと区別される。

15. マメヒラタケシキスイ

E. (Haptoncurina) paulula Reitter, 1873* (図29)

〔調査標本〕 1ex., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 1ex., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 37exs., キャンプ場～利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH; 1ex., オタドマリ沼周辺の海岸, 鬼脇, 3. VII. 2019, SH; 1ex., 姫沼, 3. VII. 2019, SH; 1ex., 同場所, 27. VIII. 2019, AK; 4exs., 森林公園, 4. VII. 2019, AK; 4exs., 同場所, 27. VIII. 2019, AK; 1ex., 同場所, 29. VIII. 2019, AK; 8exs., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, SH; 1ex., 大ボン山, 29. VIII. 2019, AK.

利尻島初記録。今回の現地フィールド調査では、各種の花から多数の個体が得られた。

16. カクアシヒラタケシキスイ

E. (Micruria) bergeri Sjöberg, 1939 (図30)

〔調査標本〕 1ex., 見返台, 15. VI. 1994, 渡部ほか (RTM); 3exs., 同場所, 29. VIII. 2019, AK; 1ex., 東ノドットマリ川, 鴛泊, 8. VI. 1995, [MT], MS (RTM); 5exs., 森林公園～見返台, 29. VI. 2019, AK; 1ex., 同場所, 4. VII. [FIT], SH; 2exs., 同場所, [BT], 29–31. VIII. 2019, AK; 4exs., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 6exs., 同場所, 29. VIII. 2019, AK; 1ex., キャンプ場～利尻山五合目, 鴛泊, 2. VII. 2019, AK; 2exs., キャンプ場～利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH; 1ex., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 1ex., 小ボン山, 鴛泊, 2. VII. 2019, AK; 2exs., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, AK; 11exs., 同場所, 3. VII. 2019, SH; 5exs., オタドマリ沼附近の海岸, 3. VII. 2019, SH; 3exs., 森林公園, 4. VII. 2019, AK; 5exs., 同場所, 27. VIII. 2019, AK; 5exs., 見返台～利尻岳六合目, 4. VII. 2019, AK; 3exs., 姫沼, 27. VIII. 2019, AK; 1ex., 南浜湿原, 3. VII. 2019, SH; 1ex., 見返台～利尻山八・五合目, 30. VI. 2019, SH.

本種は、久松定成 (1985) により、利尻島から記録されている。枯枝のビーティング等により多く

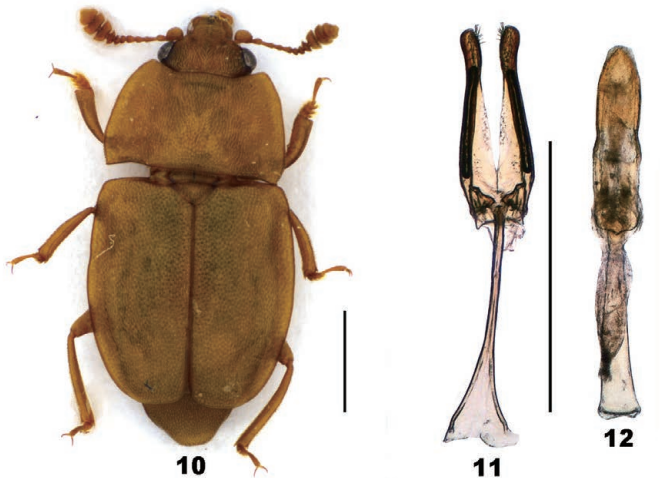


図10–12. スベハダヒラタケシキスイ (新称) *Epuraea silacea*. 10. 背面; 11. tegmen; 12. median lobe. Scale bars= 1mm.

の個体を確認した。利尻島には多産する。

17. キバナガヒラタケシキスイ

E. (M.) mandibularis Reitter, 1873* (図 31)

[調査標本] 2exs., キャンプ場～利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH; 1ex., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 1ex., 南浜湿原, 3. VII. 2019, SH.
利尻島初記録種。

18. セアカヒメヒラタケシキスイ

E. (M.) submicrurula Reitter, 1884

[調査標本] 1ex., 見返台～利尻山六合目, 4. VII. 2019, AK; 5exs., 姫沼, 27. VIII. 2019, AK; 5exs., 同場所, 30. VIII. 2019, AK; 7exs., 大ボン山, 29. VIII. 2019, AK.

本種は久松定成 (1985) により利尻島から記録されている。

19. ヒラタケシキスイ属の仲間

E. (M.) sp. (図 32)

[調査標本] 1ex., 海岸, 南浜, 3. VII. 2019, AK.
♀ 1 頭のみのため同定を保留。

デオケシキスイ亜科

Carpophilinae Erichson, 1943

20. クロハナケシキスイ

Carpophilus (Carpophilus) chalybeus Murray, 1864 (図 33)

[調査標本] 1ex., 利尻町立博物館周辺, 7. VI. 1991, MS (RTM); 2exs., メヌウシヨロ沼, 南浜, 17. VI. 1992, MS (RTM); 1ex., 同場所, 24. VI. 1992, MS (RTM); 1ex., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, AK; 2exs., 森林公園, 29. VIII. 2019, AK.

本種は, 久松定成 (1985) により利尻島から記録されている。各種の花などから採集される。

21. ハラグロデオキスイ

C. (Ecnomorphus) sibiricus Reitter, 1879

今回の採集・標本調査では確認できなかった。本種は, 保田 (1991) により利尻島から記録されている。

チビケシキスイ亜科

Meligethinae Thomson, 1859

22. ドウイロチビケシキスイ

Brassicogethes haroldi (Reitter, 1877) (図 34)

[調査標本] 多数, 見返台, 29. VI. 2019, AK; 2exs., 見返台～利尻山八・五合目, 30. VI. 2019, SH; 12exs., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 4exs., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 4exs., 小ボン山, 2. VII. 2019, AK; 6exs., キャンプ場～利尻山五合目, 鴛泊, 2. VII. 2019, AK; 4exs., 海岸, 南浜, 3. VII. 2019, AK; 2exs., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, AK; 6exs., 姫沼, 3. VII. 2019, AK; 12exs., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, SH; 11exs., オタドマリ沼附近の海岸, 3. VII. 2019, SH; 24exs., 南浜湿原, 3. VII. 2019, SH.

本種は, 久松定成 (1985) により利尻島から記録された。利尻島では多産し, 今回のフィールド調査でも, 各種の花から得られた。体表には銅色の光沢がある。

23. クサフジチビケシキスイ

Fabogethes circularis (J. Sahlberg, 1903) (図 35)

[調査標本] 3exs., オタドマリ沼附近の海岸, 3. VII. 2019, AK; 14exs., 同場所, 3. VII. 2019, SH.

本種は Hisamatsu (2019) により, 利尻島産の標本をもとに日本から初記録された。いずれの個体も, ヒロハクサフジ *Vicia japonica* (マメ科) の花 (図 7) より採集された。

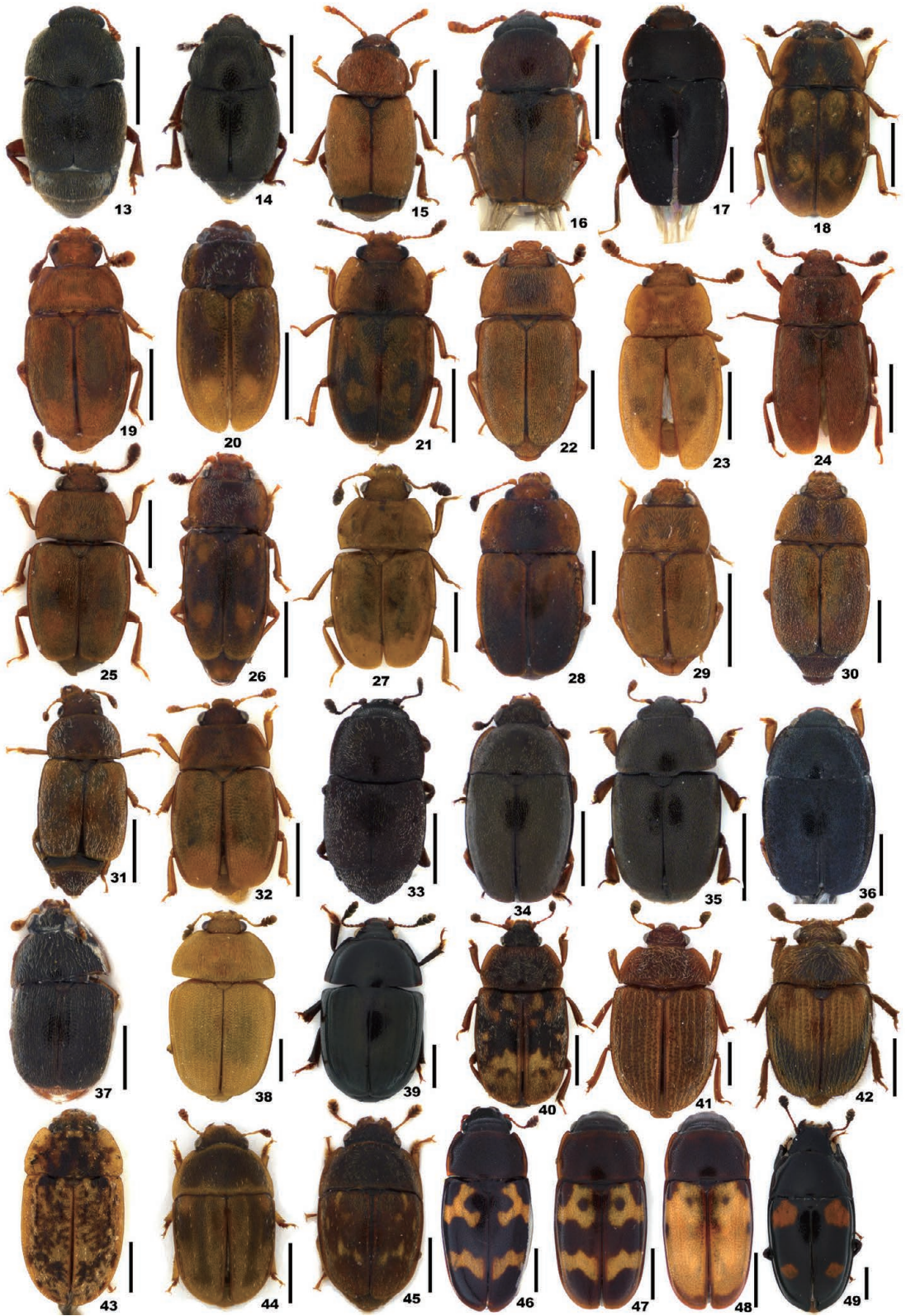
24. キムネチビケシキスイ

Meligethes denticulatus (Heer, 1841)

今回の採集・標本調査では確認されなかった。本種は久松定成 (1985) により利尻島から記録されている。

25. キバリチビケシキスイ

M. violaceus Reitter, 1873* (図 36)



[調査標本] 1ex., 利尻町立博物館周辺, 7. VI. 1991, MS (RTM); 6exs., 海岸, 南浜, 3. VII. 2019, AK; 1ex., 姫沼, 30. VIII. 2019, AK; 22exs., 同場所, ハマナスの花より, 3. VII. 2019, SH.

利尻島初記録. ハマナス *Rosa rugosa* (バラ科) の花には必ずと言って良いほど, 本種が群がっていた (図8). 本種幼虫もこの花から確認しているので, 成虫・幼虫ともハマナスを利用していると考えられる. 体表は青い光沢がある.

ケシキスイ亜科

Nitidulinae Latreille, 1802

26. コクロムクゲケシキスイ

Aethina (*Aethina*) *inconspicua* Nakane, 1963* (図37)

[調査標本] 1ex., 見返台, 24. V. 1994, 渡部ほか (RTM); 2exs., 東ノドットマリ川, 8. VI. 1995, MS (RTM); 1ex., 同場所, 23. VII. 1995, MS (RTM); 6exs., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, AK; 1ex., 姫沼, 3. VII. 2019, SH; 1ex., 同場所, 30. VIII. 2019, AK; 1ex., 見返台～利尻岳六合目, 4. VII. 2019, AK; 多数, 森林公園, 4. VII. 2019, AK; 1ex., 御崎, 仙法志, 30. VIII. 2019, AK.

利尻島初記録. 今回のフィールド調査では, ヤマナラシの仲間 *Populus* sp. (ヤナギ科) のピーティングにより得られた.

27. キイロセマルケシキスイ

Cychramus luteus (Fabricius, 1787) (図38)

[調査標本] 1ex., オチウシナイ沢, 30. VI. 2019, AK; 1ex., 大ボン山, 1. VII. 2019, AK; 5exs., キャンプ場～利尻山五合目, 鴛泊, 2. VII. 2019, AK; 1ex., 小ボン山, 2. VII. 2019, AK; 1ex., 見返台～利尻山八・五合目, 30. VI. 2019, SH; 8exs., キャンプ場～利尻山二合目, 鴛泊, 1. VII. 2019, SH; 2exs., キャンプ場～利尻山頂上, 鴛泊, 2. VII. 2019, SH; 1ex., オタドマリ沼, 3. VII. 2019, SH; 2exs., 姫沼, 27. VIII. 2019, AK.

本種は, 保田ほか (1991) および久松定成 (1985) により, 利尻島から記録されている.

28. ヨツボシセマルケシキスイ

C. variegatus (Herbst, 1792)

[調査標本] 1ex., 森林公園～見返台, 29. VI. 2019, AK.

本種は, 保田ほか (1991) および久松定成 (1985) により, 利尻島から記録されている.

29. ニセクロマルケシキスイ

Cyllodes dubius (Reitter, 1877) * (図39)

[調査標本] 1ex., 小ボン山, 1. VII. 2019, SH; 1ex., 姫沼, 27. VIII. 2019, AK; 2exs., 同場所, 30. VIII. 2019, AK; 2exs., 大ボン山, 29. VIII. 2019, AK.

図13-49. 13. ウンランチビハナケシキスイ *Brachypterolus pulicarius*; 14. コクロチビハナケシキスイ *Brachypterolus urticae*; 15. キイロチビハナケシキスイ *Heterhelus scutellaris*; 16. ズグロチビハナケシキスイ *H. solani*; 17. オオヒラタケシキスイ *Epuraea (Aphenolia) pseudosoronia*; 18. カノコヒラタケシキスイ *E. (Dadopora) vicaria*; 19. ヒゲブトヒラタケシキスイ *E. (Epuraea) aestiva*; 20. ツマジロヒラタケシキスイ *E. (E.) apiciclara*; 21. クロテンヒラタケシキスイ *E. (E.) argus*; 22. ナミヒラタケシキスイ *E. (E.) biguttata*; 23. ナミムネヒラタケシキスイ *E. (E.) distincta*; 24. ホソキヒラタケシキスイ *E. (E.) oblonga*; 25. ウスモンアカヒラタケシキスイ *E. (E.) pallescens*; 26. ニセホソキヒラタケシキスイ *E. (E.) rubronotata*; 27. セコブヒラタケシキスイ *E. (E.) terminalis*; 28. 同 黒化型; 29. マメヒラタケシキスイ *E. (Haptoncurina) paulula*; 30. カクアシヒラタケシキスイ *E. (Micruria) bergeri*; 31. キバナガヒラタケシキスイ *E. (M.) mandibularis*; 32. ヒラタケシキスイ属の仲間 *E. (M.)* sp.; 33. クロハナケシキスイ *Carpophilus (Carpophilus) chalybeus*; 34. ドウイロチビケシキスイ *Brassicogethes haroldi*; 35. クサフジチビケシキスイ *Fabogethes circularis*; 36. キベリチビケシキスイ *Meligethes violaceus*; 37. コクロムクゲケシキスイ *Aethina (Aethina) inconspicua*; 38. キイロセマルケシキスイ *Cychramus luteus*; 39. ニセクロマルケシキスイ *Cyllodes dubius*; 40. キボシヒラタケシキスイ *Omosita colon*; 41. ホコリタケケシキスイ *Physoronia (Pocadiodes) japonica*; 42. クロモンカクケシキスイ *Pocadius nobilis*; 43. クロキマダラケシキスイ *Soronia lewisi*; 44. チャイロココニケシキスイ *Cryptarcha inhalita*; 45. ナミモンコケシキスイ *C. strigata*; 46-48. クリストフオニケシキスイ *Glischrochilus (Librodor) christophi*; 49. アカハラケシキスイ *G. (L.) rufiventris*. Scale bars = 1mm.

利尻島初記録。現地調査では、菌類の子実体（図9）より得られた。

30. キボシヒラタケシキスイ

Omosita colon (Linnaeus, 1758) (図40)

[調査標本] 多数, 御崎, ウミネコの屍骸より,

30. VIII. 2019, AK.

本種は久松定成 (1985) により利尻島から記録されている。*Omosita* 属は、乾燥した動物質から得られる (久松定成, 1985)。

31. ホコリタケシキスイ

Physoronia (Pocadiodes) japonica (Reitter, 1873)* (図41)

[調査標本] 15exs., 大ボン山, ホコリタケより,

29. VIII. 2019, AK.

利尻島初記録。ホコリタケ類より得られることが知られている (久松定成, 1985)。

32. クロモンカケシキスイ

Pocadius nobilis Reitter, 1873* (図42)

[調査標本] 1ex., 大ボン山, ホコリタケより,

29. VIII. 2019, AK.

利尻島初記録。北海道からは、中谷・柏崎 (2019) により初めて記録され、今回の記録は2例目となる。前種同様、ホコリタケ類より得られる (久松定成, 1985)。

33. クロキマダラケシキスイ

Soronia lewisi Reitter, 1884* (図43)

[調査標本] 1ex., 見返台, 24. V. 1994, 渡部ほか (RTM).

利尻島初記録。樹液に集まり、果物トラップでも採集することが出来る。

オニケシキスイ亜科

Cryptarchinae Thomson, 1859

34. チャイロコオニケシキスイ

Cryptarcha inhalita Reitter, 1884* (図44)

[調査標本] 12exs., 森林公園, ナナカマドの実より, 29. VIII. 2019, AK; 8exs., 森林公園～見返台, 29-31. VIII. 2019, [BT], AK.

利尻島初記録。北海道本土産の個体に比べ、利尻島産の個体は色が薄く、縦縞が現れる個体が多いのが特徴的である。

35. ナミモンコケシキスイ

C. strigata (Fabricius, 1787)* (図45)

[調査標本] 2exs., 森林公園～見返台, 29-31. VIII. 2019, [BT], AK; 4exs., 同場所, 4. VII. 2019, [BT], SH.

利尻島初記録。樹液に集まる種類であるが、今回はいずれの個体もバナナトラップで得られた。

36. クリストフオニケシキスイ

Glischrochilus (Librodor) christophi (Reitter, 1879)* (図46-48)

[調査標本] 25exs., 見返台, 24. V. 1994, 渡部ほか (RTM); 1ex., 同場所, 15. VI. 1994, 渡部ほか. (RTM).

利尻島初記録。利尻島産個体について、上翅斑紋の変異幅は非常に大きい。肩部に人型の紋をもつものから、全体が黄褐色になるものまで見られた (図46-48)。

37. アカハラケシキスイ

G. (L.) rufiventris (Reitter, 1879) (図49)

[調査標本] 14exs., 見返台, 15. VI. 1994, 渡部ほか (RTM); 10exs., 森林公園～見返台, [BT], 4. VII. 2019, SH.

本種は、久松定成 (1985) により利尻島から記録されている。発酵した果物を用いたトラップで採集出来る。通常、上翅に4つの濃赤色の円紋があるが、斑紋の大きさや数には変異があることが知られている。利尻島の個体でも、図49のような通常型から、基部の二円紋しかもたないもの、そして無斑のものも見られた。

38. ヒョウモンケシキスイ

G. (L.) pantherinus (Reitter, 1879) *

[調査標本] 1ex., オチウシナイ沢, 30. VI. 2019, AK; 1ex., 見返台~利尻岳六合目, 4. VII. 2019, AK.

利尻島初記録.

考察

本研究では、利尻島のヒラタムシ上科の研究の第一報として、ヒゲボソケシキスイ科とケシキスイ科の2科を扱った。ヒゲボソケシキスイ科については、確認された4種のうち、2種が同島初記録であった。ケシキスイ科については、確認された38種のうち、同定を保留しているヒラタケシキスイ属の仲間1種を除き、スベハダヒラタケシキスイ及び別途報告済みのクサフジチビケシキスイの2種が日本初記録であった。また、その他の島内初記録が23種であった。このことから、同島のコウチュウ目の中でも、体長が小さく、かつ分類学的研究の更なる余地が残されているヒラタムシ上科については、特に解明度が低いことが推測された。また、北海道本土とは異なるコウチュウ相をもつことも伺えたことなどから、利尻島のコウチュウ相は非常に興味深く、同島のヒラタムシ上科の更なる種構成の解明は日本のコウチュウ相の解明に大きく寄与する重要なものと考えられるため、今後においても研究を進めていきたい。

謝辞

本研究をまとめるにあたり、佐藤雅彦氏（利尻町立博物館、利尻島調査研究事業事務局）には、現地調査や博物館での標本調査、そして採集許可申請の手続きなどで大変お世話になった。Andrew R. Cline 博士（Plant Pest Diagnostics Center, California Department of Food and Agriculture）には、本稿についてコメントを頂いたほか、英文の校閲を行って頂いた。橋越清一氏（松山市）、松井宏光氏（松山市）には、エゾニワトコの同定をして頂いた。長谷川奨氏（宗谷森林管理署）には、国有林内への入林許可申請について、有山義昭氏（稚内自然保護官事務所）には、利尻山特別保護地区内動物の捕獲許可と特別地区内

工作物の新築許可について大変お世話になった。西島徹氏、西島加奈子氏（利尻うみねこゲストハウス）には、現地滞在中に利尻山の環境についての情報を頂いた他、他方面に渡りお世話になった。厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 久松定成, 1985. ケシキスイ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛治(編) 原色日本甲虫図鑑 (III). 保育社. 大阪. 500pp.
- Hisamatsu, S.-T., 2011. A review of the Japanese Kateretidae fauna (Coleoptera: Cucujoidea). *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 51(2): 551–585.
- Hisamatsu, S.-T., 2016. A revision of Japanese Epuraeinae (Coleoptera, Nitidulidae). Part I. *Epuraea* subgenera: *Dadopora* Thomson, *Epuraea* Erichson, and *Epuraeanella* Crotch. *Zootaxa*, 4080(1): 1–100.
- Hisamatsu, S.-T., 2019. New records of *Fabogethes circularis* (J. Sahlberg, 1903) and *F. nigrescens* (Stephens, 1830) (Coleoptera, Nitidulidae, Meligethinae) from Japan. *Elytra, new series*, 9(2): 349–351.
- 堀繁久, 1999. 北海道周辺離島のオサムシ科甲虫相. 利尻研究, (18): 81–92.
- 今坂正一, 1978. 利尻島6月下旬のハムシ. *Elytra*, 6(1): 38.
- Imura, Y., 2004. Discovery of *Hemicarabus macleayi* (Coleoptera, Carabidae) from the Alpine Zone of the Island of Rishiri-to, Northeast Japan. *Elytra*, 32(2): 235–240.
- 石田正明, 1976. 北海道利尻島のマグソコガネ2種. *Elytra*, 3(1/2): 24.
- 石田正明, 1985. 利尻島のシデムシ類. 月刊むし, 178: 28.
- 柏崎昭, 2015. 北海道初記録のケシキスイ科甲虫7種. さやばねニューシリーズ, (18): 20.
- 国土地理院, 2020. 地理院地図: <https://maps.gsi.go.jp/#12/45.181553/141.240921/&base=>

- std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0
m0f0 (2020年11月20日閲覧).
- 松井英司, 1994. 北海道利尻島の水生甲虫類. 利尻研究, (13): 7-8.
- 森田誠司, 1995. 利尻島のゴミムシ類. 利尻研究, (15): 1-7.
- 森田誠司, 2004. 北海道北部のマルガタゴミムシ類. 利尻研究, (23): 45-48.
- 森田誠司, 2015. 日本産ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* の研究 (1) 利尻島からの2種類について. 利尻研究, (34): 15-17.
- 中谷正彦・柏崎昭, 2019. IVコウチュウ目. 弟子屈町屈斜路湖畔和琴半島の昆虫. 道東の昆虫と自然別冊, 15-47.
- 乙部宏, 1993. 利尻島のベニモンチビオオキノコ. 月刊むし, 270: 37.
- 佐藤雅夫・楠井善久, 1984. 利尻島のカミキリムシ. *jezoensis*, 11: 114-116.
- 保田信紀・西谷栄治・佐藤雅彦, 1991. 利尻山における地表性甲虫類の垂直分布 —利尻島・礼文島昆虫相調査報告—. 利尻町立博物館年報, (10): 13-28.